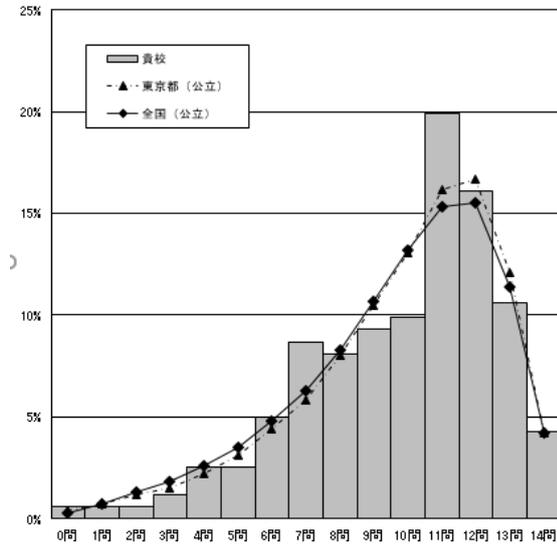


令和4年度全国学力調査（中3対象）の結果より

国語

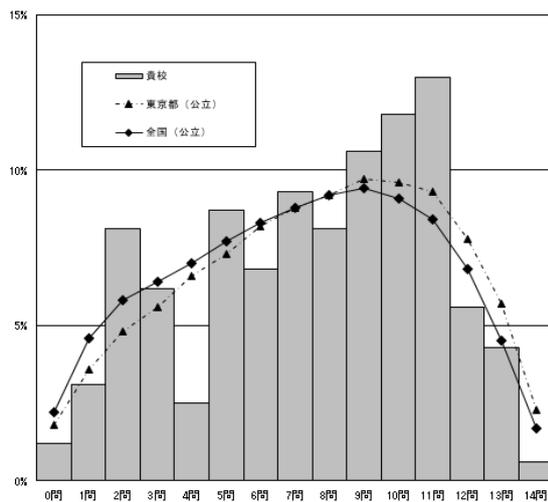


全体として、本校は全国の平均正答率を上回り、都と同様の平均正答率でした。特に、表現技法や行書の特徴などの既習の内容においては、平均を遥かに超えていることから、知識・技能において繰り返し学習している事柄についてはよく定着していることがわかります。また、登場人物の心情を読み取ったり、話し合いをより良くするために論理的に考えられたり、文章をより良くするための工夫ができたり、一概に日常的に使われる表現力や思考力は都や全国を上回っていることがうかがえました。これらは、本校生徒の各単元に対する真面目で丁寧な学習姿勢から培われたものと思われま

す。一方、長文から必要な情報を引き出し、自ら工夫して回答するような書く力が足りないことがわかりました。それらの問いに対して無回答の生徒の割合も

多くなります。日頃から様々な種類の文章に慣れ親しみ、必要な情報を取り扱い、自らの工夫で答えを導き出す訓練をしていく必要があると感じました。

数学

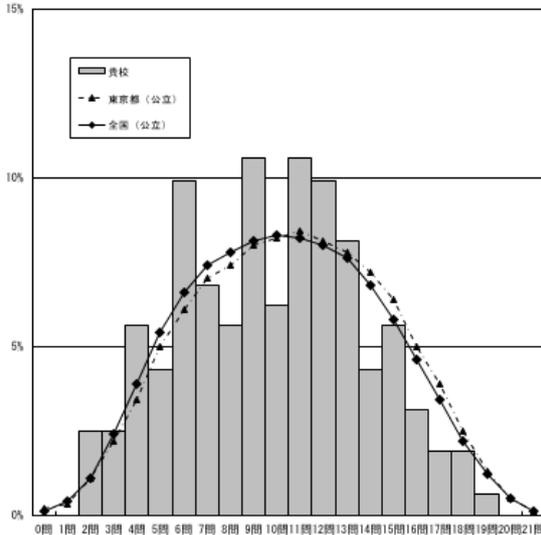


学習指導要領の4領域の内「関数」を除く3領域（「数と式」、「図形」、「資料の活用」）の平均正答率において、全国平均を上回っています。どの領域においても知識・技能を問う問題、また短答式の問題の正答率は3～5ポイント程度上回っており、普段の学習の中で生徒がきちんと基礎的、基本的な技能を習得し、また短答式の問題の練習をしていることが伺えます。

課題と考えられるのは記述式の問題の正答率が全国平均とほぼ変わらず、東京都全体と比べると低く推移している点です。また、問題すべてを見た際に、7～8割程度正答している生徒は全国、東京都に比べ

人数の割合が多い反面、正答率が2割程度にとどまる生徒は比較すると多くなっていることから、苦手意識をもっている生徒たちの理解力をいかに丁寧に上げていくかが課題として考えられます。習熟度別の指導を活かし、個に応じた指導を今後も続けていきます。

理科



学習指導要領の4領域(「エネルギー」「粒子」「生命」「地球」)の全てにおいて全国平均を下回っていました。特に、「粒子」を柱とする領域では、全国よりも5ポイントの開きがあり、具体的に化学分野の、目に見えないものを粒子モデルで表して考えることが難しいという結果になっていました。

さらに、問題形式別で見ると、記述式の5題とも正答率が全国を下回っていました。無回答率も高いことから、日頃の授業で初見の問題等に対して、十分に書かせる時間を確保し、自分の考えを書く習慣を身につけさせることや、今までの知識を活用して考えさせることが必要になっています。

また、全国より正答率が大きく上回ったのは、脊椎動物の足の骨格などの共通点や相違点を比較し分析

する問題とバネの伸び縮みに対しての正しいグラフを選択する問題でした。グラフの書き方については一人一人時間を取り、確認していたのでグラフの書き方を身につけることができたのだと考えられます。

今後の改善策として、日頃の授業から生徒の考えを書かせて適宜アドバイスし、書く習慣を身につけていきます。また、宿題や小テストを通して、生徒の躓きを即座に把握し、次回以降の授業に生かすことで、生徒の学力向上に繋げていきたいと思ひます。

生徒質問紙の集計結果より

基本的な生活習慣(睡眠・食事)については、全国や東京都の結果とおおむね同じくらいとなっています。「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」という質問では肯定的な回答が全国、都の平均に対して高く、朝の挨拶運動や3分前着席、予鈴登校などの生徒たちの取組の成果が出ているようです。

また、自分自身に関する質問に対しては、肯定的な回答が全国平均より高いものが多くありました。例えば、「自分には、よいところがあると思いますか」という回答は4～5ポイント高く、他人とのかかわりに関する質問では、「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」という質問に対する回答は2～3ポイント上回っており、他人に対する優しい気持ち、自分への肯定的な気持ちが大きいことが分かりました。

一方「土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」という質問は、都に比べ肯定的な回答は10ポイント程度下回る結果となりました。試験に向けての学習計画や試験勉強など真面目に取り組むことはできています。将来を見据え、自分のために普段から努力できる環境をご家庭と連携しながら作っていくことが必要だと考えます。